

久保田市長の全力投球

第58回



50歳、まだまだ成長中です

先月、50歳になりました。多くの皆さんから温かいお祝いの言葉をいただき、心より感謝申し上げます。50歳と聞くと、すっかり落ち着いた大人のようですが、本人としてはまだ発展途上です。最近では体重まで少し成長してしまいました。慌ただしい時期は不思議と減るのですが、平時はなかなかそうはいきません。

も同じです。問題は5階に着いた直後です。息を整えながら、何事もなかったような顔で職員に「お疲れさまです」と笑顔であいさつするところまでが一連の運動です。

次の世代へ

姉妹都市ユージンに派遣された掛川の高校生から、英語で堂々と報告を受ける機会がありました。私の学生時代の英語より流ちょうなのは言うまでもありません。若い世代の挑戦する姿を見るたびに、大変頼もしく感じます。50代になり、これまで以上に次の世代へ何を残せるかを考えるようになりました。

初心を忘れずに

敬老会や100歳訪問では、人生の大先輩の皆さんに長寿の秘訣をよく伺います。すると、「体をよく動かすことだよ」「好きなものをしっかりと食べるんだよ」と教えてくださいます。なるほどと思いつながら、私も最近では野菜や豆腐を意識して食べる毎日です。まずは100歳の半分、50歳として、まだ道半ばです。

私が市長になったのは44歳の時です。その原点には東日本大震災があります。今年で15年。あの経験が、地方からできることがあると強く背中を押してくれました。

階段と笑顔の修行中

市役所では、市長室のある5階まではエレベーターを使わず、階段で上がるようにしています。外出先から戻った時

50歳。人生の先輩方に学びながら、健康にも気をつけ、これからもチャレンジを続けていきます。

オーガニックなまちをつくらう

有機農業が思い通りにいかないとき、中学校にサッカー部が出来たとき、この後、市内に小学生のジュニアチームが生まれ始めたころのことを思い出します。

かけがわ農業クラブが始まりました。私は、市内初の中学校サッカー部が市立北中学校に出来たときにサッカーを始め、今も続けています。

有機農業が思い通りにいかないとき、中学校にサッカー部が出来たとき、この後、市内に小学生のジュニアチームが生まれ始めたころのことを思い出します。

何かを立ち上げるとき、最初はとても大変です。夢を描き、計画を立て、応援してくれる人に支えられて情熱をもつて始めても、現実には思うようには進みません。そんなときに耳に入ってくるのは、「だから難しいんだ」という外からのうまくいかない理由の声です。市内にサッカーのチームが出来始めたころには「野球のまちにサッカーが定着するわけがないよ」とか、「グラウンドがないから作られたら困るよね」とか、「サッカーはけがが多いよね」などという声ばかりでした。

それでも少しずつ広がり、今では市内から日本代表選手が生まれるまでにになりました。いつの間にか物干しに、洗濯されたジュニアチームの練習着が気持ちよさそうに風に揺られる光景が当たり前のものになっています。

私は、有機農業に夢と計画をもって始めましたが、思いどおりにいかないことも少なくありません。そんな時に、物干し台で風に揺れている子どもたちの練習着を見かけると、「夢をあきらめないでくださいね」とか、「このままでも大丈夫ですよ」と言ってもらえているような気持ちになります。

さて、この4月、中学校部活動の地域移行を受けて、「かけがわ農業クラブ」を立ち上げました。「農業と食と環境の未来を育む場にしたい。ここから農業の担い手を育てたい」とそんな思いで準備を進めてきました。

しかし、現在の参加希望者は数人です。思い返せばサッカーのジュニアチームも、最初はほんの数人でした。ですから、農業クラブも大丈夫です。「最初は大変だったね」と笑える日がいつか来るはずですよ。

そのために大切なのは、あのころにサッカーチームの立ち上げに関わった人たちが今も口にする「でも、楽しかったよね」という言葉を、心から言い続けることだと思います。

しあわせ野菜畑代表 大角昌巳



vol.14